

ウナギ (ウナギ科)



学名 : *Anguilla japonica*

大きさ : 全長 100 cm

特徴 : 背側は暗色で、腹側は白色。腹鰭はなく、背鰭と尻鰭は尾鰭に繋がっている。類似種のおオウナギ *A. marmorata* とは分布域 (おオウナギは南方に多く、関東以西から分布しており、奄美大島以南ではウナギよりも多い) や体表の模様 (おオウナギの背中には黄褐色の地に黒褐色のまだら模様があり、腹側は黄白色をしている) などで見分けられる。産卵場は南太平洋。

2009年5月に世界で初めて受精卵がグアム島の西方約 370 km のマリアナ海嶺南端部の水深 160 m 付近で採集され、産卵場所がほぼ特定された。

国内の分布 : 太平洋側は北海道の日高地方以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。主として河川の中・下流域や河口域、湖に生息する。

県内の分布 : 各地の河川や湖沼

県内での生態 : 霞ヶ浦水系では、常陸川水門がまだ建設されていない 1960 年頃は 12



写真 : ウナギ稚魚。シラスウナギの時期を過ぎて体は黒くなっている。シラスウナギの頃の体は透き通っている。

～5 月にシラスウナギが海から遡上しており、そのピークは2～4月にあった。シラスウナギの遡上は夜間の上げ潮時に多くみられていた。常陸川水門が完全閉鎖された1975年以降は常陸川や新利根川では遡上が激減した。全国的にはシラスウナギの漁獲量が著しく減少していると言われているが、利根川河口域に関しては遡上量の年変動は大きいものの、減少しているとは言えない。

湖沼では全長 30 cm 前後の2～3歳魚が主

に漁獲される傾向にある。利根川下流域では50 cm前後の4~5歳のものが多く漁獲される傾向にある。雄は4~5歳で、雌は7歳程度（70 cm前後）で成熟が進むようである。成熟が進んだ親魚は9月頃から降河する。

食性は肉食性で、涸沼ではゴカイ類やイサザアミ、水生昆虫、魚類など様々なものを食べる。

備考：日本で消費されているうなぎのほとんどが国内、中国などでの養殖ものに頼っている。養殖は現在のところ天然採捕されたシラスウナギを出荷サイズに仕立てることで行われており、国内では毎年2万トン程度が生産されている。県内では唯一、利根川河口域で漁業協同組合への特別採捕許可によるシラスウナギの採捕が行われている（通常はシラスウナギの採捕は行うことができない）。シラスウナギの特別採捕許可はウナギの増養殖用種苗供給を目的とするもので、本県では1962年から発給している。大きくなったウナギは、ウナギ筒（たかっぽ）、延縄、定置網などで漁獲される。

主な文献：

- 加瀬林成夫（1960）利根川水系における種ウナギの供給について．茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調査研究報告, 5: 1-11.
- 加瀬林成夫（1961）霞ヶ浦北浦におけるウナギ・スズキ及びボラの遡河について．茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調査研究報告, 6: 65-79.
- 二平 章（2006）利根川および霞ヶ浦におけるウナギ漁獲量の変動．茨城内水試研究報告, 40: 55-68.
- 日本水産資源保護協会（2004）平成15年度ウナギ資源増大対策委託事業報告書（5年間の成果とりまとめ）．日本水産資源保護協会, 241 pp.
- 農林水産省（2010）．平成19年漁業・養殖業生産統計年報．
- Tsukamoto, K. et al. (2011) Oceanic spawning ecology of freshwater eels in the western North Pacific. *Nature Communications*, 2: 179 doi: 10.1038/ncomms1174.